

例會記事

大正八年六月七日午後一時より本校第一教室に於て例會を開く本日の講演次の如し。

1. 色素及び食物につきて 黒田先生

2. 糊につきて 理一、四 飯田もと

開會にあたり矢部先生より理科部會の主旨につき御話ありたり。

なほ本日出席せられし客員及賛助員次の如し

平田教授 矢部教授 黒田教授

金山講師

石川ふさ 辻村みちよ 岡田けい

講話

色素につきて

黒田教授

(文責筆記者に在り 係)

物の色は物理學的に見れば光線を吸収するとか反射する結果とか云ふが私はこれを化學的方面から見てお話したいと思ふ。

化學上より見た元素で色を持つて居るものは多くある。ハロゲン、鐵、金、銅等は其例である。私は其れ等については述べない。

有機化合物はCが主で其れにH、O、N等の少數の元素が組み合はされて種々の複雑な化合物を作つて居る。其の中には非常に美しい色素等も含まれて居る。例へば花の色素等もやはり有機化合物に基因して居る。世の中には種々の色があるけれども其れを構成する元素の數の少ないのは其の構造が異なる爲であらうといふ事は誰でも想像が出来る。化學の進歩は色と構造との間に一般的に表はさるる關係があるであらうと誰にも考へさせられる。有機化合物は大體分けて脂肪屬と芳香屬とにする。例へ

ば $\begin{array}{c} \text{H} \ \text{H} \ \text{H} \\ | \ | \ | \\ \text{H}-\text{C}-\text{C}-\text{C}-\text{H} \\ | \ | \ | \\ \text{H} \ \text{H} \ \text{H} \end{array}$ の如くCが鎖状をなして結合するものは

前者に屬し $\begin{array}{c} \text{H} \\ | \\ \text{HC} \ \text{C} \ \text{CH} \\ / \ \backslash \\ \text{HC} \ \text{CH} \\ | \ | \\ \text{H} \ \text{H} \end{array}$ の如くCがRingをなすものは後者に

屬す。此の構造と色との間に如何なる關係があるか? 脂肪